【添付資料２】

平成２６年６月２４日
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会
移動通信委員会

平成２５年度　携帯電話・ＰＨＳにおける製品環境アセスメント評価の結果報告について

一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会（ＣＩＡＪ）は、一般社団法人電気通信事業者協会（ＴＣＡ）と共同で、自主活動組織「モバイル・リサイクル・ネットワーク」にて、携帯電話・ＰＨＳにかかる資源の有効利用について取り組んでいます。その一環として、移動通信委員会では、３Ｒ（リデュース（削減）、リユース（再使用）、リサイクル（再生））について、「携帯電話・ＰＨＳの製品環境アセスメントガイドライン」を制定し、メーカーにおける指針としています。

今般、会員各社の協力を得て、平成２５年度の製品環境アセスメントを実施しましたので、その結果を公表します。

１．アセスメントの概要

・実施期間：平成２６年２月～３月
・参加会社：移動通信委員会　リサイクル検討ＷＧ　９社
　ＮＥＣインフロンティア（株）、ＮＥＣカシオモバイルコミュニケーションズ（株）、
　京セラ（株）、シャープ（株）、セイコーインスツル（株）、
　ソニーモバイルコミュニケーションズ（株）、日本無線（株）、
　パナソニックモバイルコミュニケーションズ（株）、富士通（株）
・対象機器：調査時点の各社の携帯電話・ＰＨＳ端末、データ通信端末
・実施方法：ＣＩＡＪ移動通信委員会制定の「携帯電話・ＰＨＳ端末の製品環境アセスメントガイドライン（第３版）」の全評価項目を調査票により調査、集計。

２．集計結果の概要

スマートフォンの伸長で機能アップすると共に薄型化や軽量化を進める中、アセスメントガイドラインを考慮した設計の継続推進が求められています。　参加会社は９社、対象機器はスマートフォンを含む携帯電話・ＰＨＳ・データ通信端末で、各社とも３Ｒを積極的に推進している状況が確認されました。

（１）リデュースの評価

各社とも、通信速度の高速化や液晶の大型高精細化を進めているが、消費電力の少ない新型液晶の採用など消費電力の低減に努めている。また、液晶強度の向上などで耐久性の

向上や取扱説明書の電子書籍化による簡易版のみの同梱、梱包材の小型化にも努めている。製品の容積や質量を削減し、レアメタルの使用量を削減抑制した部材を優先使用する等の取り組みが進んでいる。

（２）リユースの評価

各社とも取り付けねじの種類と数の削減に努めている。　一部、防水仕様の採用により、分解やプリント基板の交換に注意を要する製品が有るが、引き続き、納入先毎にＡＣアダプタを共通化する対応を取り組んでいる。

（３）リサイクルの評価

一部のモデルで薄型化に伴う強度アップのために金属とプラスチックなどの複合材を使用している製品があるが、各社とも複合材料の削減に取り組んでおり、再利用や機械粉砕処理などへの影響を考慮している。　一方で、再資源化原料として利用可能な材料部品にするための解体・分解が容易な構造の設計を推進している他、貴金属、希少金属類を含む部品や、製品に含まれる鉱種の把握にも取り組んでいる。

さらには、携帯電話・ＰＨＳ 端末における各社が自主的に行う事前評価（アセスメント）の基準とされるものとして、「携帯電話・PHS の製品環境アセスメントガイドライン」と二次電池の回収・リサイクルを容易にするための「小形二次電池を使用した通信機器の表示に関するガイドライン」を定めリサイクルしやすい製品作りに取り組んでいる。

３．今後の予定

携帯電話・ＰＨＳではスマートフォンの伸長に伴って、高機能化・薄型化・デザイン性重視の傾向が強くなっていますが、３Ｒに対する関心も社会的なレベルで一層高くなってきています。　平成２５年４月より、「使用済み小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」（小型家電リサイクル法）が施行され、地方自治体で携帯電話・ＰＨＳを含む小型家電の回収する仕組みが整備されつつあることから、各社は、顧客のニーズと３Ｒの双方の要求を満足させるべく、引き続き製品環境アセスメントの内容を考慮した製品設計への取り組みが重要と考えています。 集計結果も踏まえ「製品環境アセスメントガイドライン」を更に充実させ、各社の携帯電話・ＰＨＳおよびデータ通信端末などの３Ｒ取り組みに向け、より一層の活動を推進して参ります。

本件に関するお問い合わせ

一般社団法人　情報通信ネットワーク産業協会

サービス部長

林　弘章

TEL. 03-5403-9358